

赤川省吾著「独、輸出主導で好調続く、 - 10年実質成長率3.4%予測、雇用の改善際立つ、新興国頼みに警戒感も - 」日本経済新聞 2010年10月23日朝刊を読む

独、輸出主導で好調続く

1. ドイツ経済の好調ぶりが目立っている。21日に独政府が発表した経済予測によると2010年の実質成長率は年3.4%、11年も年1.8%と潜在成長率を上回る勢いの景気回復が続く。外需にけん引される形で設備投資に火が付き、失業者が大幅に低下するとのシナリオをドイツは描く。ただ新興国頼みの成長には警戒感も強く、持続力が課題となる。
2. 「まるで(1990年の)東西ドイツ統一直後の経済ブームを見ているようだ」。21日の記者会見でブリューデレ経済技術相はこう表現した。
3. 当時、新たに西独マルクを手にした旧東独市民は西側の消費財を買いに走り、旧西独地域では中古車が飛ぶように売れた。90～91年の成長率は年5%を超え、東西統一の効果に国内が酔いしれた。
4. いまドイツ製品を求めるのは新興国。ステータスシンボルとしてのドイツ製乗用車などへの「中国とインドの需要が大きい」(独経済技術省)。欧州連合(EU)域外向けの8月の輸出額は前年同月比で4割増えた。フランスなどより高い国際競争力にユーロ安の追い風も加わり、輸出企業の業績は絶好調だ。
5. 独 ifo 経済研究所が22日に公表した企業景況感指数は市場予想に反して上昇し、企業の設備投資意欲に火が付きつつあることを裏付ける。11年の失業者数は290万人と、これも東西統一直後の92年以来の水準にまで低下する見通しだ。
6. 連邦予算の過半を社会保障費が占めるドイツでは公的支援の対象となる失業者が減れば財政再建にも追い風になる。主要経済研究所は財政赤字が11年にEUの財政基準である「国内総生産(GDP)比の3%以内」に収まると予想する。
7. 「経済の奇跡」と呼ばれた50～60年代の高度成長を彷彿(ほうふつ)させるとの見方もあるなか、公共放送ARDが「疑わしき経済の奇跡」と報じるように、先行きへ警戒感は消えていない。ドイツ銀行は鉱工業生産の伸び率が11年に大きく縮小すると分析。ドイツ連邦銀行(中銀)も「景

気失速やデフレ」は否定するが「成長の勢いは鈍る」と認める。

8．新興国の高い成長がどこまで続くか見えないうえ、足元ではユーロが対ドルで上昇。ドルへの連動性が高いアジア通貨安が長い間続けば、いずれは企業業績に響くとの不安もある。さらに「主要輸出先の米国と EU にも不透明感がある」(ドイツ銀調査部)。

9．直近の経済の輸出への依存度は 4 割を超える。第 1 次大戦前から輸出依存型経済だったドイツでは、外需の冷え込みが成長率の低下に直結する。それゆえ英米などには、「ドイツは輸出依存を是正し、内需を拡大することで景気安定を目指すべきだ」との指摘がある。

10．ただ徹底したインフレ抑制策と健全財政を軸にした通貨の安定こそが成長をもたらすとの信念が戦後ドイツの財政・金融政策を支えてきただけに、そうした要求にドイツは応じてこなかった。新興国頼みの成長に不透明感が残るなか、ドイツと英米との対立に再び焦点があたる公算もある。

[コメント]

日本経済新聞ベルリン支局の赤川省吾氏のレポートは、これからの日本経済を考える上で非常に有益である。高い国際競争力、為替政策(ユーロ安)、インフレ抑制策、健全財政など、1 つ 1 つが日本としても大切な取り組み課題であるが、為替政策と健全財政はもっともっとドイツから学ばねばならないと考える。

- 2010 年 10 月 23 日 林 明夫記 -